

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：55101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26770114

研究課題名(和文) 日系アメリカ文学にみる環境思想 食と農業を中心に

研究課題名(英文) Environmental Visions in Japanese American Literature: Focusing on Food and Agriculture

研究代表者

早水 英美(岸野英美)(Hayamizu, Hidemi)

米子工業高等専門学校・その他部局等・講師

研究者番号：90512252

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、マスモトやオゼキを中心とする日系アメリカ人作家の作品を食と農業に関連するエコクリティシズムを援用して分析した。研究成果は、本研究テーマに関する論考を含む特別記事2本、マスモトとオゼキの食や農業へのオルタナティブな視点とその可能性を探る論考を掲載した『変容するアメリカの今』(2015)の共著出版、国際学会での発表を含む5回の口頭発表、日系カナダ人作家の招聘として結実した。

研究成果の概要(英文)：This project's aim was to analyze Japanese American Literature with ecocriticism and environmental justice related to food and agriculture.

The outcomes of this study are culminated in one co-authored book, two articles in "Ecocriticism Review No.7," and five presentations including one at an international conference as well as inviting a Japanese Canadian author to Japan as a lecturer at several societies and universities.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：環境文学 エコクリティシズム 日系アメリカ人作家 日系カナダ人作家

1. 研究開始当初の背景

日系アメリカ文学に関しては、近年、環境アクティビズムに関する議論や、風景や場所の表象を通じたエスニシティ描出と構築の考察が進んでいる。例えば、エコクリティシズム研究の第一人者であるアイダホ大学のスコット・スロヴィック教授がゲスト・エディターとして加わったアメリカ多民族文学研究学会 (the Society for the Study of Multi-Ethnic Literature of the United States) の学会誌 *MELUS* (2009年34巻2号) では「エスニシティとエコクリティシズム」が特集された。先住民作家シルコーヤチカーナ作家ボビタ・ゴンザレス、日系アメリカ人作家デイヴィッド・マスモトなど多様なマイノリティ作家の作品分析を通して、第三次エコクリティシズムの展望と可能性が探求されている。また、サラ・キャストイール編著 *Second Arrivals: Landscape and Belonging in Contemporary Writing of the Americans* (2007) の論集では、ユダヤ系作家マラマッドヤロス、日系カナダ人作家ジョイ・コガワ、アフリカ系作家キンケイド、韓国系カナダ人ジンミー・ユンの詩や小説、映画や写真などが取り上げられ、キャストイール独自の文化的、地理的視点から作家たちの描く風景と文化的・民族的アイデンティティの関係性が考察されている。日本においても2012年のアメリカ学会第46回年次大会において松永京子氏 (神戸市立外国語大学准教授) がダナ・ハラウェイやバンダナ・シバの理論を援用しながら、日系アメリカ人作家ルース・L・オゼキの作品における環境アクティビズムの考察を行った。

以上から、日系アメリカ文学 (一部日系カナダ文学) から発信する自然表象の考察や作家の環境思想を探る研究の重要性が認められるようになってきたと言える。しかし、従来の研究は日系アメリカ文学がマイノリティ文学やアジア系アメリカ文学の一部として捉えられており、多様な文学や文化を横断する研究でもあった。日系アメリカ文学のように一つの文学領域に焦点を当て、さらに歴史的背景と絡めて考察を深めるといことはほとんどなされておらず、不明な点が多い。

本研究では、日系アメリカ文学 (一部日系カナダ文学) に限定し、食や農業に関連したエコクリティシズムのアプローチで作品分析を試みた。具体的には、環境問題に対する意識が高い作家たち、すなわち農業をしながらエッセイを中心に執筆活動を続けるデイヴィッド・マス・マスモトや日本人とヨーロッパ系アメリカ人の間に生まれ、東洋と西洋の両視点から環境問題に挑むルース・L・オゼキを中心とした日系作家を取り上げて、作品の中の農業や食の表象や農業の表象を分析し、日系作家たちの環境思想を探ることを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、食や農業に関連するエコクリティシズムの有効性を確認した上で、日系アメリカ文学の作品の中で食や農業がどのように表象されているかを分析し、日系アメリカ人作家の接点と独自性を捉え、彼らの環境思想を探ることにある。具体的には以下2点を明らかにすることを目的とした。

(1) アメリカのフードシステムの仕組み、アメリカにおける農業的不公正について情報収集を行い、食と農業を巡る問題について理解を深める。同時に食や農業に関するエコクリティシズムがこのような問題をどのように扱っているか明らかにし、作品分析に用いた。

(2) 日系アメリカ人作家の作品分析を通して、食や農業に関わる問題が日本をルーツとするエスニシティや文化とどのように絡み合っているかを分析する。その際、日系移民と農業の関わり等歴史的な観点も取り入れながら検証する。

3. 研究の方法

(1) 広島大学および国会図書館での調査と資料収集

日系移民と農業に関する基本的な資料とエコクリティシズム研究関連する資料について調査を行うために、研究代表者が社会人学生として在籍している広島大学図書館と、国会図書館を利用する。

(2) アメリカでの調査と資料収集

アイダホ大学の図書館にて食と農業に関するエコクリティシズムの資料収集とスコット・スロヴィック教授との面談を行う。

(3) 作家の招聘と講演会の企画・実施

研究開始当初の計画ではマスモトやオゼキ、さらに彼らと同じように、日系アメリカ人で環境問題に強い関心を持つカレン・テイ・ヤマシタにインタビューを行い、農業や食、農場・土壌汚染などについて話を伺うことを計画していた。しかし、日程調整がうまくいかなかったことと、作家の体調不良が重なり、実現が難しくなった。代わりに研究代表者はかねてから面識のある日系カナダ人作家ヒロミ・ゴトー氏を日本へ招聘し、ゴトー氏に日本の学会や大学などで講演をしていただくこととなった。

(4) 学会発表

調査や情報収集に基づいて、アジア系アメリカ文学研究会や中四国アメリカ文学会、ASLE-USなどで発表を行う。

(5) 論文執筆

調査や情報収集した資料と学会発表に基づいてエコクリティシズム研究学会のジャーナルに記事を掲載する。また関連する論文集の出版（共著）を目指す。

4. 研究成果

(1) 広島大学および国会図書館では、日系移民の歴史と農業、エコクリティシズム研究に関する調査と資料収集を行った。

(2) アメリカの食と農業に関する資料を収集するために、アイダホ大学モスコワ校のスコット・スロヴィック氏を訪ね、近年のエコクリティシズム研究の動向や、日系作家だけでなく食や農業に関心を持つアジア系作家について教示いただいた。またニューヨークのパブリック・ライブラリーも訪れ、フードシステムの仕組み、アメリカにおける農業的不公正について情報収集を行った。さらに、現在、オゼキが禅僧侶として在籍するブルックリン禅センターも訪れることができた。スタッフの協力を得て、オゼキの作品に多大な影響を及ぼしている禅仏教について調査し、オゼキの作品への理解を深めることができた。

(3) 日系カナダ人作家ヒロミ・ゴトー氏を日本へ招聘し、日本カナダ文学会やエコクリティシズム研究学会、広島大学等で講演していただいた。特に、エコクリティシズム研究学会と研究代表者の科研費との共催で開いた講演会では、ゴトー氏に、身体を軸にしてアイデンティティの形成から食や農業、環境を巡る問題までを有機的に絡めてお話ししていただいた。本講演会では、日本を代表する日系文学研究者・松原美恵京都女子大学元教授をコメンテーターとして迎え、ジェンダーと土地の関わり、食と芸術、日本の神話・民話と動物表象等についても議論がなされ、充実した講演会となった。本講演の原稿（一部修正）はエコクリティシズム研究学会の学会誌『エコクリティシズム・レビュー』No.9（2016年8月）に掲載される予定である。

(4) 調査や情報収集に基づいて、ジャネット・フィスキオのフードシステムの往来者の議論を借用して分析を試みる発表「アメリカの不自然な食べ物をめぐって - Ruth L. Ozeki の *All Over Creation* 再考」と「アメリカのフードシステムとオゼキの作品」、日系作家の描く桃に文化的な意味を見出し、オゼキとマスモトの食や農業に対するオルタナティブな視点を考察した発表「日系アメリカ人作家における桃の象徴性 - Masumoto と Ozeki を中心に」と「Hidden Messages in Food: Representation of the Peach in Japanese American Literature」、オゼキのデビュー作からメディアと食の関連性を考察した発表「食に潜むリスクの伝え方 - Ruth L. Ozeki の

My Year of Meats におけるメディアを再考する」を行った。

(5) アメリカのエコクリティーク、ジャネット・フィスキオとヘザー・ハウザーの論文を21世紀におけるエコクリティシズム実践の特集記事としてエコクリティシズム研究学会の学会誌に掲載することができた。また前述したマスモトとオゼキの桃の象徴性について比較考察を行った発表の原稿を修正し、『変容するアメリカの今』（2015年大阪教育出版）の一部として共著出版することができた。加えてオゼキの作品とメディアに関する発表についても、今後、原稿に修正を施し、学会誌などに投稿する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2 件)

岸野英美、「第3章ジャネット・フィスキオ、エコクリティシズムを揺るがす」、『エコクリティシズム・レビュー』No.7、査読無、2014、pp.102-104

岸野英美、「第6章ヘザー・ハウザー、驚異的な馴染みのなさ」、『エコクリティシズム・レビュー』No.7、査読無、2014、pp.111-113

〔学会発表〕(計 5 件)

岸野英美、「食に潜むリスクの伝え方 - Ruth L. Ozeki の *My Year of Meats* におけるメディアを再考する」 中四国アメリカ文学会冬季大会中・四国アメリカ文学会・冬季大会、2015年12月5日

Hidemi Kishino(Hayamizu), “Hidden Messages in Food: Representation of the Peach in Japanese American Literature”, 2015 ASLE Biennial Conference June 23-27, 2015

岸野英美、「日系アメリカ人作家における桃の象徴性 - Masumoto と Ozeki を中心に」 中・四国アメリカ学会第42回年次大会、2014年11月29日

岸野英美、「アメリカのフードシステムとオゼキ

キの作品」第27回エコリティシズム研究学会大会、2014年8月8日

研究者番号：

岸野英美、「アメリカの不自然な食べ物をめぐって - Ruth L. Ozekiの*All Over Creation* 再考」アジア系アメリカ文学研究会第113回例会、2014年5月17日

〔図書〕(計 1 件)

町田哲司監修、柏原和子、松原陽子編著『変容するアメリカの今』、大阪教育図書出版、2015(岸野英美 担当箇所:「現代の日系アメリカ文学に見る農業の風景 マスモトとオゼキが描く桃の象徴性をめぐって」 pp.143-154)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

早水英美(岸野英美)(HAYAMIZU HIDEMI)
松江工業高等専門学校・人文科学科・講師

研究者番号：90512252

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()